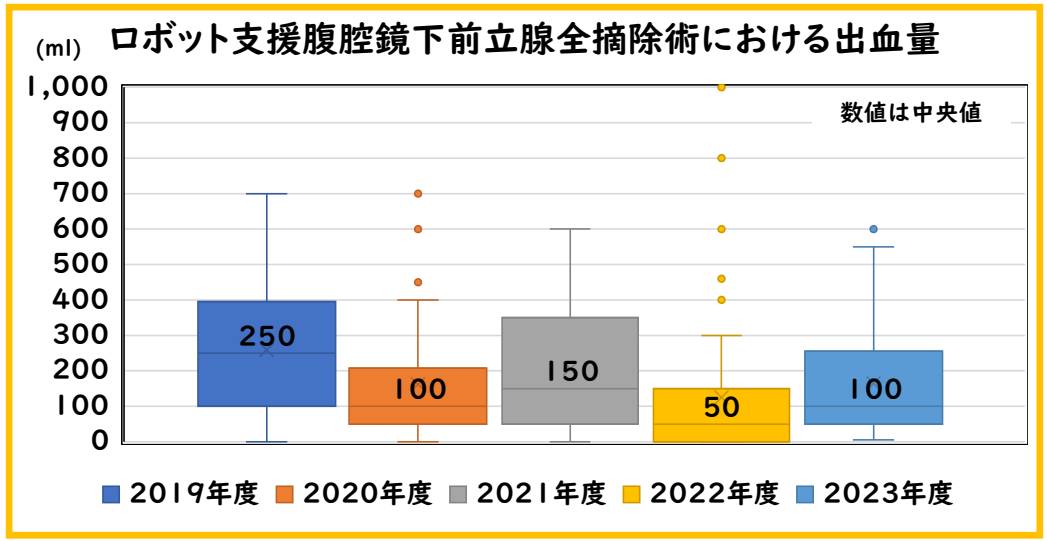
22 ロボット支援腹腔鏡下前立腺全摘除術における出血量

腎臓外科・泌尿器科

◆解説◆

ロボット支援手術では拡大した良好な視野のもと、繊細な手術操作を行うことが可能です。
開腹手術より出血量を抑えることができ、前立腺と精嚢をきれいに切除でき、確実な尿道膀胱吻合ができます。
出血は低侵襲手術の一つの指標となる項目であり、臨床指標項目になり得ると考えています。

◆当院の実績◆



◆自己点検評価◆

2020年度の出血量の中央値は100ml、2021年度の出血量の中央値は150ml、2022年度の出血量の中央値は50ml、2023年度は100mlと非常に少ない出血量で手術を施行することができ、輸血症例はありませんでした。
(測定している出血量には膀胱が開放した後に術中に流れる尿も含まれています。つまり、実際の出血量はさらに少ないです。)

◆定義◆

腹腔鏡下前立腺悪性腫瘍手術(内視鏡手術用支援機器を用いるもの)のオーダ症例における出血量